

くじらの
ジャ〜ンプ!

「くじらの博物館」に立ち入ると、まずはセミクジラやコククジラの実物大の骨格標本がお出迎え。頭上にぶら下がるこの巨大な骨格からはじまって、セミクジラの模型やヒゲ板等、すべてが実物大で展示されているので迫力満点です。また広大な施設内にあるショープールと自然プールでは、青空の下シャチャイルカ、クジラちゃんたちがジャンプ、ジャンプ、ジャ〜ンプ!! トレーナーのおにいさんやおねえさんとの痛快な水上パフォーマンスは感動ものです。



クジラ舟に施されたアートともいえるカラフルな色彩と、屈強な江戸の男衆の対比が見事!! 必見ですよ。

うっわあ〜
大きい〜!!

自然プールでは、クリア kayak に乗ってのクジラウォッチングや、イルカのトレーナー体験が楽しめます。また一番気軽なものでは、受付でエサを買ってクジラやイルカへのエサやり体験なんてのもあったので、「やりた〜い♡」となり早速チャレンジ!!

イルカと
あそぼ!

エサをGET!



こっちへおいで〜!!

エサを手にしただけで、バクバクッと口をあけて寄ってくるクジラやイルカたち。めっちゃかわい〜いよお〜!!

太地町立
くじらの
博物館

in TAIJI

今回は、前回より新探検隊員に任命されて、ハリキリまぐりのぷらむH号「たつてのお願い!」って事で、和歌山が誇る歴史ある観光の町「那智勝浦町」と太地町「へ」の一日旅をご案内。那智勝浦はH号のふるさとで、高校時代までをこつりみつちり過ごした思い出たつぷりの町。なので気合いの入りはすさまじく、一人で何日も前から緻密なスケジュールをたて、めでたくこの日をむかえたのでありました。パチパチパチ...が、H号の心とは裏腹に、早朝からボツリボツリと降り注ぐ雨。道中では車のワイパーをフル作動しても前が見えない状態となり、こんなので、今日の予定はどうなるの...?の雄叫びの中、「はじまり、はじまり」の一日になりました。

日本 でいちばん クジラを 身近に 感じる 町へ

海風を感じながら、身もココロも解放!



みなべ町を出発して2時間半、まずは最初の目的地「太地町」に到着。途中の豪雨は嘘のように晴れ上がり、異様なハイテンションとなったH号はカメラ片手に先頭きつてくじらの博物館へダッシュ。初参加のスタッフ2名と共に、クジラの町で知られる太地町の歴史について、館長の林克紀さんにお話を伺いました。紀伊半島の先端部に位置する太地町の沖は、黒潮の流れにより、ちょうどクジラの南下と北上の通路にあたるのだそう。そんな環境から、住民の祖先はクジラ類を捕獲する技術を発達させてきたのです。太地町は日本で最初の古式捕鯨発祥の地といわれています。今から四百年程前に、和太地元という武士が戦での「兵法」にヒントを得て、山見という探鯨台から旗や狼煙で通信させ、たくさんの方と人を合理的に動かす「鯨組」をつくりだしたのです。日本で最初に捕鯨方法を組織化したその才能は受け継がれ、孫の頼治が網を用いた捕鯨を生み出してからは、町をあげての大きな事業に発展し、「捕鯨の本場太地」は天下にその名をとどろかせるようになったという事。一九八七年に商業捕鯨が禁止されてから以降も、IWCの管理対象外である小型捕鯨は行われていて、長くて深い歴史と共に今も彼らと共存し続けています。太地町の人々のクジラへの想いはきつと日本一ゆるやかな時間が流れるきれいな海の町には、人とクジラの物語がぎっしり詰まっています。

腹びれのある
イルカは
世界初の大発見!!

ショーを楽しんだ後は、海洋水族館「マリナリウム」へ。ここでは、熊野灘、黒潮に生息するいろんな海の生き物を観察できます。中でも2006年の10月に、太地沖で発見されたバンドウイルカの「はるか」は、世界初の大発見!! と言われ、腹部に1対のはっきりとした「腹びれ」を持っていたと〜とてもめずらしいイルカです。今から5000万年前もの大昔、クジラ類の先祖は陸で生活していました。「腹びれ」は、退化した後脚の先祖返りしたものではないかと考えられています。入ってすぐのトンネル水槽から、遊泳するその姿を間近に眺めることができるので、はるかかたの太古のロマンに浸りながら〜ぜひ!!

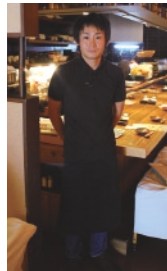


新鮮素材の創作料理を 心ゆくまで味わう贅沢

H号の中学時代のバスケット部の先輩家族が営むお店。写真は先輩の谷亮子？ではなく、谷亮（あきら）さんです。マグロで有名な漁港の町勝浦には、マグロ料理を楽しめる店が数多くあります。中でもここは、海を知り尽くした目利きの料理人が、毎日水揚げされたばかりの新鮮な地元魚介を提供！さらに、素材の味をしっかり生かした多彩な創作和食は、魚を食べ慣れた地元人をも唸らせる人気の軒。ダイニングバー的な店内とJAZZが流れるくつろぎの空間も◎なのです。



bodai
JR 紀伊勝浦駅前
TEL 0735-52-0039
ランチ 11:00～14:00
(L.O 13:30)
ディナー 17:00～23:00
(L.O 22:30)
火曜日休



人気 No.1!

鯖中とろカツ定食 1,500 円は数あるマグロ料理の中でも一番人気の逸品。サクサクの薄い衣と、新鮮中トロの食感が絶妙で、ひと口食べるごとに「うんつまあ〜い!」の連発に…。



まぐろ皮ぼん酢 600 円とまぐろとアボカドの酢味噌和え 850 円は谷さんおすすめのお刺身やくじらベーコンも、めったに味わえないおいしさです。

はじめて訪れても、どこか懐かしい！
ノスタルジックな香りと
力強さに包まれた温泉町

今回の旅は
僕におまかせ!



駅から歩いて数秒のところにある、ぶらむH号が住んでいた家です。かつてはお寿司屋さんを営んでおりました。



「かつてはたくさんの観光客で人波がで、連日にぎやかな声が絶えなかったんですよ。」と幼少時代の思い出をしみじみと語るぶらむH号。当時に比べると、人の姿は減少したものの、昔ながらの温泉地という「まっとう」な歴史が醸し出す、ノスタルジックな感じがとっても魅力的な那智勝浦町の駅前ロータリー。駅に降りたつたらずぐのところに足湯（滝乃湯）は、歩き疲れた足をゆる〜りゆるりとほぐしてくれます。



写真右の勝浦温泉「はまゆ」は、数ある町内の温泉の中でもH号いち押しの公衆浴場。地元の人から愛され続ける下町風情の佇まいもさることながら、地下500mから湧き出る温泉にゆっくりと浸かれれば、驚きのつるんつるんお肌を実感できます。入浴は大人 320 円、小学生 130 円、幼児 60 円。「はまゆ」横には、これまたレトロなかき氷やさんもアリ。



みつけ！
みつけ！

本日の
おみやげ

「きやあ〜! くじらカレー?」「うっわあ、まぐろのかば焼きやあ〜」旅に出たら、その地でしか買えないおみやげも探してみたいのひとつ。で、今回探検隊がゲットしたおみやげがこの6品です。(写真下は那智山の自然のもと、大切に育てられた色川のお茶4種。)

運ぶ一歩でありました。

「あ〜お腹すいたあ〜」スタッフ2名のつぶやきを聞き逃すはずのない自称今回の探検隊長H号。キラリ☆目が輝いたかと思うと、いよいよH号の故郷「那智勝浦町」へと車を走らせました。「勝浦に来たら、マグロや!」ということで、予約を入れていた「bodai」へ直行。新鮮まぐろもさることながら、鮮度抜群の創作料理に全員うなりっぱなし!ここ那智勝浦は「生マグロ水揚げ日本一」の町だけあって、町内にはマグロの内臓や血合いの料理を売りにしているお店もあるのだそう。ふう〜満腹、満腹…。食事の後は、駅前にある足湯でくつろぎのひとときを。ふう〜いっぱく、いっぱく…。目の前に広がる那智勝浦町の駅前ロータリーは、昭和レトロな感じで雰囲気抜群!町の景色やふと耳にする人々の会話、気取りがない素顔の暮らしには、変わらない日本の温泉町風情があり、包み込むようなおどろかな空気がとくとも心地よいのです。毎日朝早く漁港に入港する漁船たちの汽笛やエンジン音が、温泉町の空気に溶け込み、この町ならではの力強くゆたかなリズムを作り上げているのかも…。港を歩くと、昔ながらの観光案内所が建ち並び、桟橋では離れ島に建つホテルへの送迎船がお客さんを待つて、ゆったり静かに揺れています。「あ〜、すぐにも飛び乗ってこのまま宿泊モードへ突入した〜い〜!」な欲求を何とか抑え、H号の「松島めぐり」の乗船時間まで、一つでも多くの名所探訪へと足を



紀の松島
めぐり

心地よい潮風を感じながら、いつもと違う海の世界を堪能



勝浦湾の周辺には、周囲17kmの区間に、動物のかたちをしたラクダ岩やライオン島など大自然が創りだした奇礁奇岩が点在していて、専用の遊覧船に乗って間近に観ることができるのです。遊覧船の種類は3つあって、探検隊が乗り込んだのは写真のクジラ号です。なんともかわいいでしょ〜? 一日に何便か運行されている遊覧コースの中でも、クジラ号の勝浦観光桟橋午後3時30分発の便だけは、自然の入り江を利用したプールで泳いでいるイルカたちの姿を、船に乗ったまま間近で楽しめる内容になっています。おすすめ!! (※今回だけでは、まだまだ勝浦の魅力を伝えきれない…と涙ぐむH号を落ち着かせるため、来年の秋号では、那智勝浦町の祭り特集をお届けする事が急遽決定。お楽しみに〜!)

海の風がきもちいい〜!!